

九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

中村哲著述アーカイブ
Nakamura Tetsu Digital Archive

中村哲さん講演録：平和の井戸を掘る： アフガニスタンからの報告

ピースウォーク京都 編

参加者の声

<http://hdl.handle.net/2324/4796093>

出版情報：中村哲さん講演録：平和の井戸を掘る：アフガニスタンからの報告, pp. 151-160, 2002-05. ピースウォーク京都
バージョン：初版 2002-05-19
権利関係：©Tetsu Nakamura & PeaceWalk Kyoto 2002, printed in Japan
発行元より許諾を得て本文を公開しています。
公開しているPDFの印刷、複製および許可のない二次利用はおやめください。



KYUSHU UNIVERSITY



講演会当日、アンケートに寄せられた 参加者の声

アンケートには熱心な書きこみが多く、
ここに紹介できるのは残念ながらごく一部です。



◎静かな語り口調の中に激しいエネルギーと大きな愛のこめられた素晴らしい講演であったと思います。本当のことが知りたい、自分でも何かをしたい、と思う人々がたくさん京都にいたことは、あのあふれかえる聴衆が証明していたと思うのですが、その聴衆の想いに十分応えてあまりある先生のお話でした。これを機会に私も行動を始めたいと思い、ペシャワール会に入会いたしました。

(ピースウォーク京都へ) 個人の呼びかけにより、このような大きなうねりが生まれたことに感動します。「何かしなくちゃ……」と思う人はたくさんいても「はじめの一步」をふみだすのはとてもむずかしい。九日は予定があつて一緒に歩くことはできませんでしたが、今後自分のできる形で協力していきたいと思っています。

◎私は今、高校三年生なのですが、高校の授業では全くディスカッションというものをしたことがありませんが、今、この問題を話し合うべきだと思いました。

◎参加させていただいて、本当によかった。最後は涙ぐんでしまいました。中村さんは、実行していることを、きちんと語れる、世界でも少ない人だと思う。ユーモアの中に、真実が見える。自分が問われていく。しかし、この問われ方は嫌ではない。私は、私にできる方法を考えながら、日々努めます。

◎アフガンの様子を実際にあまり知らなかったのですが、民族意識のことや、雪どけ水で生活していたことなど、初めてきいて貴重なお話でした。日本の中にもアフガンの人たちが、世界中の貧困な人々に何か助けとなることをしたいと思っている人は多いと思うけれど、中

村さんの日々の活動や努力を知って、少しでもできることからしようと思っています。アフガンのことはテロがあるまで全然知らなくて、テロがあつてからもそのことしか知らなかったけど、その歴史や、干ばつについて詳しい話が聞けてよかったです。私は今一六歳なので、将来この国や、世界中の国が本当の意味で「平和」であるように、学び、一步一步動いて行きたいです。

◎私は学校でアフガニスタンとイスラム近代の歴史を教えました。新聞を切りぬかせ、テーマを決めて調べたりしました。それが、私にできることだったからです。本日の生々しいお話をまた生徒に伝えます。

◎私は中国からの留学生で、PMSの活動を通じてアフガンの人たちに何かしたいと、**中国語を話す人たち**

に普通のマスコミを通じてではなかなか知り得ないことを知ってほしい思いがあつて、翻訳の手伝いをもしできたらしたいと思います。

◎私は大学院で文化人類学を専攻していますが、どの先生方も学生たちも、外国の国々（第三世界的な国が多い）に通い、現地での民族文化を調べて発表し、論文を書いたりしているのですが、ほとんどの人が、現地の人々と自分たちは全く別の世界の人々で、知りたい情報さえ得られれば、「さようなら」してしまふ、そんな関わり方をしているのです。それに常々疑問を持ってきました。（学問とはそんなもんかと思つたり。）しかし、現地の人々の考え方、習慣を知った上でなければ医療活動はできないと考え、それも一七年にわたつて関わりを続けてこられた中村さん、ペシャワール会の方々はずばらしいと思いました。

◎ 本当のことをおっしゃる中村先生にお会いできて元氣

が出ました。(テレビでも感じていましたがお話を伺って自分で見る目を養わなければと思いました。) 著作はほとんど読み、感激。現地の一族(二〇名) 月二〇〇〇円の食事の内容がどんなものか知りたいです。小麦と油でホットケーキみたいなのを焼くのでしょうか。新鮮な野菜など食べられるのでしょうか。農産物の実情なども伺いたかった……。せきをなさっていたようですが、お体をお大切に、奥様、ご家族にもありがとうとお伝え下さい。

◎ 「分からないことは分からない」としておいた方がよいという中村さんのことがストンと入ってきました。

先日、チョムスキーの『9・11』を読んで、また別の角度から今回の爆撃のことを考えさせられました。中村さんの一番身近な視点からのお話、よく分かりま

した。

◎ 日本で「井戸を掘る」ことは何か。

大阪、釜ヶ崎の労務者・ホームレスとかかわり、市民がこの人たちと同じ地平であることを知り相互理解、相互扶助の道をさぐることにしています。

アフガンのお話は釜ヶ崎をはじめ大阪のホームレスにはげましと自負を与えます、そして市民にも。手探りながら、一緒にやっていると嬉しいです。

かつては行政は対立的でしたが、今ではもうそれではやっていけないと協力的です。

アフガンの乞食のお話、人々の自らを守るための二枚舌、女性の話など、笑いと共にみんなに伝えたいと思います。

逆境の中でユーモアを忘れずと教えたのは沖縄の前知事大田昌秀氏でした。来年一月、沖縄の辺野古へ、

アフガンのお話や、いろいろもって行きます。

◎とてもよかったです。中村さんが活動を始められた年に私は生まれました。一七年の間に病院や井戸を掘ったりと、すごいと思いました。

私が今にいたるまで、何人の人が亡くなったのかと思うと、とても胸がいたい。

私にできることが何か、今までテレビのニュースに頼っていたこともいけないと知りました。一人で何かしようと思ってもなかなかできないけど、講演会にきている人の人数をみて、何か可能性を感じました。

今、私が日本に生きて、こんな生活をしているのと同時に、アフガニスタンには想像もつかない生活をしている人がいること、もっと多くの人に知ってもらいたいです。

◎私は今、京都で植木屋をしています、ゆくゆく、必要とされている場所に木を植えていきたいと思っています。今回の講演で農村復興、自給自足への活動も行っていくとのことでした。私は女で、なかなか現地で働くことも難しいのかも知れませんが、女性だからこそできることもあると思います。この小さなスペースでは言い尽くせませんが、もし出来ましたらベシヤワール会で関わらせて頂けたらと思います。また改めて。

◎中村さんへ

冗談の上手いおっさんだなあ。というのがとても印象的でした。少し傲慢気味な質問者に対しても現地で患者をみる姿そのまま私たちにやさしく、丁寧に対応される姿にとっても嬉しく思いました。ああ、悪運が強いというよりも中村さんの人柄に自然と共鳴する人

や、悪をチェンジしてしまう力があるんやろうなと思います。朝早く起きて講演を聴きに来て本当によかったです。私も自分なりのスタイルを持って励んでいこうと思います。

本当にありがとうございます。体には氣をつけて下さい。(あ、でもお医者さんか(笑))

◎過去の一五年戦争下に教育をうけた私は(私たちは)、**おろかにも戦争が人殺しであることを認識しなかった**といえます。

中村さんのおっしゃる命を大切にということ、沖繩の「命(ぬち) どう宝」(編者注…沖繩に古くからある考え方の「命こそ一番大切な宝」ということを改めて噛みしめます。それはとても大切なこと、わかりきったことなのに守り通すのがかなり難しいこととも思います。「三無主義」に拍手を送ります。

◎大変共感した。真実を知ることのむずかしさ、大切さ。へいのちが基本にありながら**へいのちを奪い合うおろかさ**。真実をいかに共有しうるか、それは一人一人の小さな行動と意志しかない。連帯感を強くおぼえました。私ももうひとつ何かできることをします。体には氣をつけてがんばってください。中学・高校の校長です。子供達に伝えたいと思います。

◎一つの国をどうするか、とかどうなっていくかってこと**の答えはその国にあつて**、そのための力はそのに住んでいる人たちの中にあるんだナーと思う。中村さんの話にはそのことへの信頼がすごくあるし、その国、住民の「ホント」を知ってるということが中村さんの「つよさ」をつくってるんやなと思った。そういう実体を見ずに、戦争に突き進もうとするブッシュや小泉政権、そのままにしか伝えないマスコミってほんとに

こわい。それをかえていく力も日本やアメリカの中にあるんかナア。ここにこれだけの人が集まったということもすごいけど。

◎今回の米軍の野蛮な行為について、ふっと通りすぎるように少ししか言及されなかったことにとっても興味をそそられました。ひとつは、「井戸」の本を読んでも感じるのですが、人と大地に根ざしてやれることをやっておられる人の強さ、おおらかさが表れているような気がしたからです。もうひとつは国際政治と国際組織、マスコミ、のやることなすことの根なし草的な状態をよく知っておられるからだと思います。日本において、誇大に戦争のみに視点が焦点化されている、そういう中に暮らしていることを痛感しました。（平和ということだけを単に戦争反対にわい小化してはならないなあということです。もちろん、私は戦争反対派です

が……）

◎十一月十八日の名古屋での報告会を初めて聞いて大変感動しました。その後何とか中村さんの話を聞いてほしいと思って、勝手ながら個人でビラを作って街中で二五〇〇枚配りました。これから中村さんのご多忙さは分かりますが、もっともっと、日本国内でたくさんの人に話してもらえたらなと思います。

◎本当に今日はお話が聞けてよかったと思いました。私たち日本人がどれだけ偏った情報の下にいるのか、ということを実感しました。多くの日本人は情報量の多さをもって、「世界を中立・客観的に見ている」と思いこんでいると思います。大切なのは、その情報の本質を見抜く目。そこから自分が感じとろうとすることだと思いました。一〇〇万人の餓死者に思いを馳せ

れないのならば、乾ききったのはアフガンの大地と私たちの感性です。日本の参戦を止められなかったことは、非常にくやしいことです。それはアフガンの人々に対して私たちのできる最低限の責任だったのではないかと思います。

◎講演では、おっしゃられなかったのですが、アフガニスタンの二〇〇万人の餓死は、私たちにも責任があると思います。私たちの豊かすぎる（物質的に）生活の背後に温暖化↓降雪少量↓干ばつ↓家畜の死・植物の死十人の死……。弱い立場の人にしわ寄せがいくことはとても残念に思う。募金、まわりの人への話……。などはせめてものおわびかもしれない。

◎私一人でなく、娘と一緒に話を聴くことができ、母娘の共通の財産となりました。

◎「第二次大戦で二〇〇〇万人が亡くなり、尊い命が失われました。憲法第九条は先輩たちが汗を流し、血を流したところから得たものだと思います」という先生のお言葉を深く確かめさせて頂く所存です。自分にとって「憲法第九条を守ろう」と語ることが課題であると再確認させて頂きました。

◎私は海外青年協力隊の活動に興味があり、今日のお話はとても興味深く聞かせて頂きました。医療スタッフとして参加したいなと思っておりますが、お話を聞いて、勉強するべきなのは医療の分野だけではなく、世界について、人間について、その他もつとろんなことを学び、自分で判断して動ける力をつけることだと思いました。

◎先生、オーバーワークです。日本にいる時ぐらい少

しだけでも休んで下さい。先生が倒れたら現実にも共倒れの可能性がある。日本の人々が先生の話をじかに聞きたがつて、そうすれば入金もしてくれるし、アフガンの人のことも考えて行動するようになると思います。先生の世界でも増やさない努力は淡々と続けていきたい。死ぬ時は死ぬけど。

◎最近、先生の著作や今日の講演で、**自分の眼がどんな世界へ拡がっていつています**。来春、大学生になります。空いている時間も増えると思います。自分もアフガニスタンに行つて自分のできることをし、本当のアフガニスタンを見て世界を見る眼をさらに磨きたいと思いますので、そのときはよろしくお願いします。

◎（ピースウォーク京都へ）最初に話されたことは

私の思いに通じるものでした。テロに対する報復空爆と称して米のテロともいえる攻撃を始め、日本もそれを支持する人が多数と報道され続けました。こうした中で、**歴史の中で米国がしてきたことや世界の状況を思つて出口のない恐ろしさで毎日つぶされそうでした**。その中で中村先生の『**医は国境を越えて**』をよんで、小麦粉の話をきいて、人間の良心としてとても希望がもてました。

◎広い分野にわたり、様々な柔軟で説得力のある言葉を持たれていてすばらしかったです。一つ一つの言葉の重みを感じられ、とてもひきこまれました。メディアから伝えられる情報と実情の違いを聞かされドキッとしてしました。**隠されていること、見えないことに注意を払う姿に感銘しました**。医学を志す者として尊敬できると人に会えて幸せです。

講演会報告とお礼

講演会では、会場から約二〇〇万円のカンパがペシャワール会「アフガンのちの基金」に寄せられ、翌日、ペシャワール会に送金させていただきました。ご協力ありがとうございました。

この講演会は、会場を提供いただいた京都ノートルダム女子大学をはじめ、運営資金カンパを寄せられた方々、運営に力を貸していただいた方々のご協力によって成り立ちました。目に見えるもの、見えないものすべてが無償で持ち寄られたことに、心より御礼申し上げます。

*この講演録は講演会運営のために寄せられたカンパから運営実費を差し引いた残金によって作られました。当講演録の売り上げは全額ペシャワール会に寄付させていただきます。

